

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300108
法人名	医療法人 愛誠会
事業所名	ふれ愛の家 おじやったもんせ
所在地	鹿児島県曾於市大隅町中之内8842-24 (電話) 099-482-4398
自己評価作成日	令和4年2月13日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この地域では、唯一民家を改修型のグループホームで、静かな住宅街に位置しています。
介護福祉士の資格取得者が5名配置されている他、同じ法人の訪問看護ステーションとの連携による週1回の健康チェックと24時間のサポート体制や主治医による月2回の定期往診、訪問看護が必要に応じ訪問等あり、利用者の生活が安心、安全に送れるように専門性の高いチームケアが行われていると思います。現在は、利用者の自立支援にも力を入れ、残存能力を活かし、自分でできる事は自分でして頂くように心がけています。家族への情報提供として、入居者の個人新聞を3~4ヶ月に1回のペースで発行しています。コロナ禍の為運営推進会議等が集ってできなかったのですが、電話で地域の委員や家族と電話と文書で会議を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、曾於市岩川の郊外に位置し住宅地の民家を改修して開設されており周辺住宅に溶け込み庭も広々として桜の大木やツツジなど数種類の季節の花々が植えられ、菜園もあって旬の野菜は食卓を賑わせている。母体医療機関、介護老人保険施設、訪問看護ステーション、関連のグループホームとの法人連携が日常的にあって緊急時や重度化の医療連携や自然災害時の法人の応援体制、研修体系が構築され、職員の資格取得へのバックアップやサービスの質の向上に向けて法人全体での職員教育がなされ、就業環境を整えている。職員の定着率も良く離職は少ない。

年2回、協力医療機関の管理栄養士が職員の作成した献立に栄養価やバランスなどについて指導やアドバイスをしている。季節の行事食にも柔軟に取り組んでおり、利用者ごとの栄養評価を参考に食事形態を工夫、医師指導により、栄養補助食などを取り入れ必要な栄養摂取量が摂れるよう取り組んでいる。また、職員は栄養摂取だけでなく口腔衛生、清潔保持に努め義歯調整や口腔内環境についても評価を取り入れている。訪問看護師や主治医などと連携し、全身状態を把握、体重の推移、疾病の悪化や症状の進行などが無いよう医療連携が図られている。

理念は、昨年見直しが行われ家族にも安心していただけるケアを目指している。毎週月曜日に法人の朝礼で唱和され部署代表の職員も参加しているが、定期的な評価を実施し職員に浸透している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり一緒に地域生活を楽しむ」という理念をリビングに掲示し、地域の中で利用者様がスタッフと一緒にご自分のペースで安心、安全に生活して頂くという意識を全スタッフが共有している。	理念は、法人の全体朝礼で毎週各部署の代表職員で唱和され法人と共有されている。昨年、利用者とともに家族にも自分達の介護を届けたいとの思いから見直しがなされた。職員は、勤務に入る前に個々に唱和、意識づけし常に理念を意識したケアの実現を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地区民生委員の方が隣に住んでおられる事から日常的に会話を行っている他、運営推進委員会を通して地域の方々との交流を行っている。6年前より職員が地域の清掃作業に参加している。毎年、8月は、地域の奉仕作業に参加している。	地域とは、長年日常的な付き合いがあり、近隣に住む民生委員とも情報交換を密におこなっている。事業所は、回覧版ではなく有線放送にて地域の情報を共有している。職員は、地域の清掃活動へ参加しているが、高齢化した地域への社会貢献を検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣の方々と日常的に挨拶を行い気軽に立ち寄れる環境作りに努めている。中蘭地区の自治会の準会員になり地区のサロンにて認知症の出張ミニ講座を行なっているが今年度はできなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の目的や意義は浸透してきており率直な意見も頂いている。そのことをミーティング等で協議、検討を重ねサービスの向上に努めている。8月の運営推進会議では、火災を想定し避難訓練を実施した。電話等で10月の運営推進会議であった土砂災害の話も11月の家族会にて報告、意見交換ができています。	現在、会議は書面会議となっているが、メンバーには事前に事業所の活動状況や取り組み課題などを報告し意見を拝聴しミーティングで話し合いサービス向上に努めている。これまで会議は、避難訓練を同時開催するなどして、会議への参加対象を家族全員としている。出された意見などは、家族会を通じて家族と情報を共有するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	曾於市GH小規模多機能の会に参加している。曾於市の認知症カフェにもスタッフとして参加し、意見交換を行っている。又、サービス提供における不明な点等あった場合は、担当に相談するように努めている。	職員は、曾於市グループホーム・小規模の会に参加し、メンバーとして小学校にて認知症サポーター養成を勧めるため寸劇をおこなうなど協力関係を築いている。また、職員はオレンジカフェにも積極的に参加したり、市職員へ事業所の取り組みについて報告し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し所属ミーティングでの研修や法人主催の研修にも参加している。研修参加者は、内容を報告し職員への周知徹底を図っている。	身体拘束等適正化を図るための指針については、法人で共有されており、法人の委員会のメンバーとして定例会議は書面で実施、定期的な研修会へ参加している。事業所単独でも研修を実施、特にスピーチロックを念頭においたロールプレイング研修を実施している。職員は、近隣の安全面に配慮した情報を収集、夕方には施錠し常に安全面に気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所属ミーティングにおいて高齢者虐待防止関連法についての勉強会を開催している他、日々の業務の中で虐待にならないかを検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、後見人制度を利用されている利用者はいないが、ミーティングにおいて、権利擁護や後見人制度に関する研修を実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約、改定時は、御家族様との面談を行い、サービスの内容、利用料、緊急時の対応、利用者情報等十分に説明を行い、納得していただいでから署名捺印を頂いている。必要に応じ、解約など面談にて十分説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも気軽に何でも言いやすいような雰囲気作りを心がけており面会や、面談など率直な意見、要望を聞きその内容をカンファレンスにて検討している。いつでも対応できるように玄関に意見箱も設置している。	昨年、理念を見直し家族にも利用者同様のケアが提供できるよう思いを寄せているため、常日頃から電話や利用者ごとの新聞、事業所全体の広報誌などで利用者の様子や事業所の取り組み状況を伝え情報を共有し意見をもらっている。家族会では、運営推進会議の内容を説明し意見交換している。また、家族からはコロナ禍での職員の対応に対し労いの言葉があり関係性も良好である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催される、ミーティングの中で検討している。管理者は、事前に担当者と会議打ち合わせを行っている。	女性だけの職場であるが、管理者を中心にミーティングなどで忌憚なく意見を出して話し合い、より良いサービス提供やチームケアに取り組んでいる。所属部署の目標があり、それについて個人目標を掲げて評価を行い、職員一人ひとりが向上心を持って職務に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績、勤務状況に合わせ個々にあわせ責任ある業務を任せている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人教育委員会による研修制度が確立されており、職員が積極的に参加できる環境を整えている。又、新職者に関しては、基本的な介護が習得できるように法人内施設実習を経てから配置となっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>曾於市グループホーム、小規模多機能会に参加し地域の同業者との情報交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、御家族様への聞き取りによる実態調査を行い、趣味、仕事生活習慣（生活歴）を把握しそれに基づいたケアを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な実態調査を行い、家族の要望等に基づき、対応、ケアを実践し不安解消に繋がるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでできる支援の中で、本人様が必要な事を考慮して対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念「ゆっくり、一緒に地域生活を楽しむ」を念頭に置きケアの実践を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、御家族様への聞き取りによる実態調査を行い、趣味、仕事生活習慣（生活歴）を把握しそれに基づいたケアを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	十分な実態調査を行い、家族の要望等に基づき、対応、ケアを実践し不安解消に繋がるように心がけている。	入居前の生活習慣や人的環境などを把握し入居後も関係性が途切れることがないよう支援しているが、特に家族には面会に来ていただけるようお願いしている。「ゆっくり、一緒に地域生活を楽しむ」というモットーがあり通院を兼ねたドライブを楽しんだり、散歩などで近隣住民と挨拶を交わしたりして顔の見える交流をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームでできる支援の中で、本人様が必要な事を考慮して対応を行っている。他の福祉サービス利用検討もしながら行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	理念「ゆっくり、一緒に地域生活を楽しむ」を念頭に置きケアの実践を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を受け持ち制にし日々の生活の中で少しの変化にも気づけるようにし状態観察を行い経過記録、申し送りノートへ記載し情報を共有化しカンファレンスにおいてケアの統一を図っている。	利用者の表情や言葉、生活ぶりを観察しながら利用者の思いや気持ちを受け止め申し送りノートなどで共有し、言葉にできない方についても思いを汲み取り職員間で話し合い、家族に確認しながら本人の望む暮らしに向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談員からの情報収集やご家族様、本人様との面談を行いバックグラウンドアセスメントを作成し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌を作成する中で、一日の過ごし方や、心身の状態を記録し、現状把握に努め情報を共有化している。日々の業務の中出を話し合いし、ケアの方向性を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しは3ヶ月に一回評価を行い、それに基づいたカンファレンスによる見直し、変化があった場合は、その都度を行っている。10日に1回SOAP記録を行い、ケアプラン評価を行なっている。家族面談にて家族の同意を得て検討した内容をプランに随時記載し現状に応じたケアを提供している。	介護計画書は、3ヶ月毎に見直し評価を行いカンファレンスを実施している。評価は、法人の各部署が共通の記録方式を採用し情報の共有を図り多職種連携を図っている。コロナ禍のため電話で現状の課題、目標やケアの方向性などについて説明を行い、面談にて同意を頂戴している。職員は、ウイークリー情報を書面で提供しつつ電話などで日々の暮らしぶりなどを伝えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や、日誌に記載し職員間の情報の共有化を図り、日々のケア提供や、介護計画書に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制があり、週1回訪問看の定期訪問や月2回の訪問診療が行われている。通常は本人や、家族の状況に応じては、通院送迎や臨時の往診依頼等行っているが、コロナ禍の為スタッフが対応した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人保健施設で開催される大きな行事に参加しているほか地区民生委員が運営推進会議に参加して頂いているが、コロナ禍の為所属内で行事を行った。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は、希望に応じて随時対応を行っている。協力病院のほか、眼科受診等入居以前からかかりつけ病院を受診できるようにしており、その際は、家族が同行しているができない場合、緊急時の場合はスタッフが対応している。	母体の協力医療機関との連携があり、月2回訪問診療、他科受診については職員が通院介助をおこなうが必要に応じては、家族に協力をもらっている。医療連携が図られており、毎週、訪問看護師が健康チェックなどをおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院の地域連携課や訪問看護との連携体制があり24時間いつでも必要な時に看護が受けられる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力病院との連携があり、入退院時にはお互いに情報提供を行っている。又、入院時には、スタッフが定期的に面会に行き、本人様の状況把握、病院側からの情報を元に精神的安定を図り早期退院を目標としている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の状況に応じて、御家族様、主治医、運営者、管理者、職員と定期的相談が行われており情報の共有化が図られている。又、状態変化があった場合は、その都度話し合いを行い方針の確認が行われている。</p>	<p>重度化した場合の事業所の体制などは、契約時に重要事項説明書にて説明をおこなっている。また、「事前指示書」にて本人、家族の意向を確認し毎年書面で意向を把握している。看取りについては、法人の方針により今後取り組んでいく予定であり、指針についても整備したいと検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応のマニュアルが作成されており職員への周知徹底を行いミーティング等で研修を行っている。又、法人研修にも積極的にさんかしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災マニュアルの周知徹底とミーティングでの研修、年2回避難訓練を実施している。実際の火事を想定し消防署との連携、火災報知機を实际使用している。</p>	<p>リビングには、防災マップが掲示されており、職員などの防災意識を高め意識づけをしている。土砂災害指定地区のため雨季など、防災無線の活用や法人の連携を強化し情報収集に努めている。地域とは防災協定を結び防災訓練に熱心に取り組み地域の避難場所になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に尊厳を持ち接し会話の内容や、言葉使いに気をつけている。個人情報保護に関する法人の研修に参加している。マニュアル等も作成している。	法人の研修会に参加したり、ホームにて研修を重ねて言葉使いには十分に注意するよう取り組んでいる。利用者に合わせて会話するが、方言であっても年長者として失礼のないよう、また、過剰な対応をしないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話のできる利用者様へレクリエーション参加や自己決定を行えるよう配慮している。又、意志疎通の図れない方々へは、好きな歌や、家族の話をお伝えし表情の変化から思いを汲みとる努力を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のだいたいの流れはあるが、個人の希望する過ごし方をペースを大事にし、安心、安全に過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	イベントや、行事、又本人が希望する際は、化粧を行ったり本人の好まれる色の衣服を御家族様へ依頼している。整容の時間を大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は一人一人に合わせている。又、味付け等にも注意し薄味でだし等で味の調整を行っている。食事は、職員と一緒にできる様にしている。	朝食や夕食は、職員が手作りしているが、昼食は施設厨房から配食されている。管理栄養士による栄養指導があり、行事食なども楽しむことができるよう取り組んでいる。食事介助はおられず利用者が希望する居室で食事を摂る方もいるが、職員が見守りしながら一緒に食事を楽しんでいる。菜園があり調理に活用されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表にて食事、水分摂取を記録している。利用者の個人の栄養評価を行い、エンシュア、プロテイン等捕食としている。管理栄養士に年2回評価、栄養指導を行っている。体重測定、血液検査にて必要時Drの指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に声かけを行い状況に応じ一部介助全介助にて毎食後義歯、口腔内洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個人の排泄パターンを把握し身体機能に配慮した援助を行っている。介助、一部介助は自立支援に基づいたトイレ誘導、個々にあったオムツの種類を選択しオムツ交換等を行っている。	排泄のリズムを把握し、居室に設置されたトイレに誘導し排泄してもらっているが、夜間帯はポータブルトイレを活用し排泄の自立を図っている方もいる。職員は、食事や運動を心がけて排便習慣を整え便秘予防に努めている。おむつ使用についてもカンファレンスなどで話し合い家族に説明し、理解を得た上で使用量を減らすよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、野菜等繊維物を提供を心がけている。トイレ誘導時は、腹部マッサージを行い便意を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の体調、状況を考え楽しめる入浴となるように支援している。一日の中で入浴の時間をこだわらずタイミングにあった入浴の声をかけを行って。足の状態によっては足浴などを実施している。	健康状態に配慮しながら週3～4回程度入浴を勧めているが、必要時や本人の希望にて入浴ができるよう取り組んでいる。入浴後は、白湯を勧めるなどして水分補給をしている。また、軟膏塗布や足浴をおこない清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活パターンを優先し午後からそれぞれ仮眠時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に管理しファイリングしている。往診時、内服薬変更時は、他職員へ情報を発信し共有化を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に外出、散歩、テラスでのティータイムなどを実施している。利用者個人の生活歴に応じた楽しみを職員と一緒に支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調、状況に応じて散歩や、友人への面会と一緒にやっている。ホーム外活動はコロナ禍の為できなかった。	天候を見ながらホームの庭を散策したり、駐車場までの散歩を日常的に楽しんでいる。職員は、感染対策を徹底し、ドライブをして地域に外出し車窓から景色を眺め気分転換をしたり、季節ごとの花見見物などに出かけて季節の移り変わりを視覚など五感で感じてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現金御お金の管理ができるものはないもののおひとりお一人の希望や体調に合わせて買い物など実施している。商品選び、支払い、可能な限りご自分で行っていただいているが、コロナ禍の為できなかった。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	本人自ら職員に依頼し電話をかけている方もいらっしゃるが電話対応が難しい方が大半で必要時は、スタッフが家族へ掛けてつなぐようにしている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	事業所内には、家具やソファ等使用し自宅と変わらない雰囲気になるようにしている。共有部分は季節感を感じれるように四季の物を飾ったり思い出の音楽を流したりし工夫を行っている。テラスにて外の光や風に当たりながらお茶、おやつを提供し楽しめるようにしている。	外観は、一般住宅と変わりがないため周辺の住宅に溶け込んでいる。庭も広く、菜園があり、玄関アプローチには大木の桜の木が植えてあり花見の時期は利用者の目を和ませている。共有スペースは広々としており和室に床の間や仏間もあって自由に過ごすことができる。ソファに座りテレビを觀賞したり、思い思いに過ごせるよう工夫がされている。職員は、換気をおこない清掃や消毒などを徹底し感染対策に努めている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	縁側付きの和室があり希望時には使用出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの小物や衣類のほか家族の写真等多数持ちこまれており使い慣れたものや好みの物を持ちこみ自宅と変わらない雰囲気になるように心がけている。	ベッド、タンス、エアコン、トイレが備え付けてあるが、使い慣れた物や愛着のある品など持ち込み居心地よく過ごしている。利用者家族の希望にて、テレビ、DVDプレーヤーで好きな作品を楽しむ方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、和室以外は、バリアフリーになっている。手すり、車椅子対応のトイレが設置され、安心、安全な生活環境が維持されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない